Ⅰ　経営改善部門（個人経営体）

農林水産省経営局長賞

菅野　慎一（福島県伊達市）

作付面積：3,300 ㎡（いちご）

・高設栽培の導入や作型の分化による労働負荷の平準化を図るとともに、環境制御技術を活用した効率的な生産体制を構築することで、作業の省力化及び経営規模の拡大を実現した。
・甘さを特徴とする新品種の導入により市場ニーズに対応した差別化販売を実現するとともに、環境制御技術の実証や栽培技術の情報共有にも積極的に取り組むことで、地域全体の生産技術向上にも寄与した。

塩月　勝行・塩月　真知子（大分県佐伯市）

作付面積：12,076 ㎡（キク）

・ICT ツールを活用した生産の見える化と需要に応じた緻密な作型調整により、効率的な生産体制を構築し、高い収益性と安定経営を実現した。
・実需者との全量直接取引体制を構築し、顧客ニーズに応じた高品質な輪ギクを安定供給することで、価格競争に左右されない販売体制を確立した。

全国担い手育成総合支援協議会長賞

會田　文雄（栃木県栃木市）

作付面積：2.5ha（水稲）、1.5ha（甘藷）、5,000㎡（いちご）

・「とちあいか」の一般栽培当初から栽培技術の確立に取り組み、精密な温度・肥培管理により、反収８ｔの高収量と高品質生産を実現。さらに増反による経営発展を進めた。
・水稲生産において低コスト生産と高品質確保を両立するとともに、耕作放棄地の活用・発生防止に向けて甘藷栽培を導入し、省力・多収技術の確立に向けた研究にも積極的に取り組んだ。

福田　正英・福田　美幸（栃木県高根沢町）

作付面積：0.8ha（たまねぎ）、0.4ha（にんじん）

・直販や加工業務用の需要に加え、自社での一次加工を行い、品質とブランド力を重視した高付加価値型農業を展開した。
・タマネギ栽培技術の研修受入れや農福連携による地域貢献に取り組むとともに、全畑の土壌診断と堆肥活用を実践し、安定収益と持続可能な農業経営を実現した。

Ⅰ　経営改善部門（法人経営体）

農林水産省経営局長賞

株式会社新日本農業（栃木県小山市）

代　　表：荒井　聡
作付面積：12,000 ㎡（いちご）、10.0ha（水稲）、15.0ha（大麦）

・市場出荷に加え、商社との直接取引や EC 販売など販路の多角化を進めるとともに、消費者ニーズに応じた多様な品種の生産と販売戦略により収益性の向上を実現した。
・いちごの高設栽培施設や米や麦への営農管理システム等スマート技術の導入により省力化を進め、計画的な規模拡大と収益性向上を実現した。

株式会社黒岩農事（群馬県嬬恋村）

代　　表：黒岩　和敏
作付面積：45.0ha（キャベツ）

・標高差を活用したリレー出荷体制と主力８品種を組み合わせた栽培体系の構築により、業務加工向けキャベツの長期間にわたる安定供給を実現した。
・通いコンテナ方式の導入による出荷作業の省力化・効率化を実現し、農繁期における従業員の負担軽減に向けて、休暇を取得しやすい体制の整備など働きやすい職場環境の整備を推進した。

株式会社アグリハウス安永（山口県下関市）

代　　表：安永　敏雄
作付面積：50.1ha（主食用米）、30.0ha（主食用米・再生二期作）20.0ha（醸造用米）
　　12.0ha（小麦）

・収益性の高い醸造用米や気候変動への対応に向けて主食用米の再生二期作を導入することで、収益性の向上を図った。
・農業アプリ等を活用したデータに基づく効率的な生産・作業管理を実践するとともに、農地集積による規模拡大や効率的な作業体制の構築を進めた。

全国担い手育成総合支援協議会長賞

農事組合法人なりた農園（秋田県鹿角市）

代　　表：成田　和由
作付面積：17.3ha（主食用米）、6.9ha（飼料用米）、0.7ha（花き）、450 ㎡（いちご）、
　　9,270 床（菌床しいたけ）

・水稲の他、花き、いちご、菌床しいたけを組み合わせた複合経営体制の確立、環境制御装置やスマート農業技術の導入、作期分散により省力化と労働時間の平準化を進めた。

・「淡雪こまち」の先駆的生産者としてブランド化を牽引し、種苗生産や販促活動にも積極的に参画。観光いちご園の展開など、経営の多角化に取り組んだ。

株式会社 FARM1739（栃木県那須町）

代　　表：井上　真梨子
作付面積：22.0ha（主食用米）、0.1ha（飼料用米）

・ドローンや乗用型直播機の活用による省力化・生産性向上を進めながら、減農薬・減肥料栽培による環境負荷軽減と高品質生産を実践した。
・直販や加工品販売による付加価値向上に取り組み、イベントや直売所での交流を通じて消費者との結び付きを強め、高収益で持続可能な農業経営を図った。

有限会社白根グレープガーデン（新潟県新潟市）

代　　表：笠原 秀夫
作付面積：2.5ha（ぶどう）、0.7ha（いちご）、0.2ha（日本なし）、0.2ha（おうとう）、0.2ha（ブルーベリー）、0.2ha（プルーン・プラム）、0.2ha（みかん）、0.1ha（もも）、0.1ha（りんご）、0.1ha（西洋なし）0.1ha（いちじく）、0.1ha（キウイフルーツ）

・ぶどうを基幹としながら、冬季に収穫可能ないちごの生産を拡大することで、「年間を通じて集客できる観光農園」を実現し、安定した雇用と収益の確保につなげた。
・令和５年にはカフェ店舗をオープン、自家産品を使った加工品やジェラートの販売を行うなど、個人の顧客を重視した経営スタイルを作り上げた。

有限会社垣善ファームス（三重県紀北町）

代　　表：垣内　享子
飼育頭数：205,000 羽（成鶏）

・飼養羽数約 20.5 万羽の採卵鶏経営を展開し、鶏舎のウィンドレス化や ISO14001 の取得による環境負荷低減と、徹底した衛生管理による安全・安心な卵の生産に取り組んだ。
・アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理や卵のブランド化を進めるとともに、女性が活躍できる職場環境の整備を実践した。

農事組合法人たたら大地紫福（山口県萩市）

代　　表：水津　信治
作付面積：69.0ha（水稲）、4.8ha（大豆）、0.2ha（野菜）

・準高冷地の気象条件をいかし、主食用米を中心に大豆や飼料用米等の生産に取り組むとともに、醸造用米や園芸品目の導入など需要に応じた作物の生産に取り組んだ。
・地域内の担い手育成に貢献するとともに、農産物販売や醸造用米の供給・種子生産を通じて地域農業の維持・発展に寄与した。

株式会社吉岡ファーム（徳島県鳴門市）

代　　表：吉岡　久
作付面積：21.0ha（ダイコン）、17.0ha（サツマイモ）

・子育て世代や障がい者が働きやすい環境整備に加え、外国人材向けに日本語教育や資格取得支援を行い、多様な人材が活躍できる職場づくりを進めており、各種支援も実施している。
・堆肥や水産物残渣を有効活用するとともに、県内農業者と連携した海外への商品展開や、全国の産地が集まるさつまいもコンテストで最優秀賞を受賞するなど、販路開拓やブランド化を進めた。

かぐや姫株式会社（大分県臼杵市）

代　　表：渡邉　賢典
作付面積：31.3ha（水稲）、4.4ha（麦）、329.7ha（作業受託）、0.7ha（特定農作業受託）

・土壌分析とデータに基づく精緻な堆肥設計により圃場ごとの最適生育環境を追求し、有機米や特別栽培米などこだわりの米生産を展開することで、安定した稲作経営を実現した。
・近隣の農業者からの作業受託に積極的に取り組み、地域農業を支えた。

Ⅱ　技術革新部門

農林水産省経営局長賞

中村　章弘（群馬県藤岡市）

作付面積：8.0ha（小麦）、7.0ha（水稲）、3.0ha（ネギ）600㎡（イチゴ）

・ネギの収穫や調製作業の機械化を先駆的に進めるとともに、考案した除草機械をメーカーが開発し、市販化されたその商品を活用することで、収穫時間を従来の二分の一にするなど、作業の省力化と効率化を図った。
・先進的な栽培技術や省力化技術の導入・実証を進め、その成果をネギ部会を通じて産地へ波及させることで、地域の単収と販売単価の向上に寄与した。

全国担い手育成総合支援協議会長賞

栄田　孝・栄田　真知子（長崎県諫早市）

作付面積：4.0ha（ばれいしょ）、2.2ha（にんじん）、0.5ha（水稲）

・ばれいしょ及びにんじんを基幹作物とし、堆肥施用や土壌分析に基づく適正施肥など土づくりを経営の基盤とした栽培を継続し、「おいしさ」と「高品質」を重視した生産に取り組んだ。
・ばれいしょ乗用収穫機やにんじん収穫機、ドローン防除などの機械化・省力化技術を積極的に導入するとともに、にんじん栽培の保水対策として切りワラ散布技術の開発・普及に携わった。地域への導入推進により作業能率向上や省力化に貢献し、安定生産と省力化を両立した持続可能な農業経営を確立した。

Ⅲ　付加価値創造部門

農林水産省経営局長賞

株式会社花園たまや（埼玉県深谷市）

代　　表：髙橋　洋平
飼育頭数：38 万羽（鶏卵）

・自家配合飼料の製造や鶏舎環境の改善により、高品質な鶏卵の安定生産を実現するとともに、直売所の運営や6次産業化の取組を通じて付加価値向上を図った。
・自家生産の鶏卵を活用したプリンやバウムクーヘン等の加工品の開発とブランド化を推進するとともに、鶏ふんを活用した高付加価値たい肥の製造･販売に取り組んだ。

株式会社牛島製茶（福岡県八女市）

代　　表：牛島　啓太
作付面積：2.0ha（茶）

・茶葉の生産仕上げ及び販売まで一貫して手掛ける強みを生かし、食品安全認証の取得や有機茶等の高付加価値商品の開発を進めることで、ブランド価値と収益力の向上を実現した。
・直売店舗や EC、カフェのほか、工場見学や茶文化体験等の体験型サービスを通じて顧客との接点を創出し、多言語で八女茶の魅力発信し、国内外における販路拡大を図った。

全国担い手育成総合支援協議会長賞

犬塚　和義（愛知県西尾市）

作付面積：0.3ha（露地花き）、0.1ha（施設花き）

・注文販売による安定的な取引と作業工程の効率化による作業負担の軽減に取り組むとともに、観葉植物において盆栽技術をいかした独自の仕立てを行うことにより差別化を図った。
・県内の鉢物生産者とともに「あいち鉢物輸出研究会」を設立し、会長として輸出体制づくりをするとともに、個人としても EU 向け検疫条件に対応したほ場整備を進めるなど、輸出の推進に取り組んだ。

株式会社石和田産業（大分県宇佐市）

代　　表：古屋　浩二
作付面積：16.4ha（醸造用ブドウ）

・収量拡大よりも品質を最優先とし、安心院の土壌・気候に適したオリジナル品種６種を県と共同で開発するなど、地域ブランドの核となる知的財産の構築を進めた。
・安心院ワインの原料供給を担い、国際的なワインコンクールで受賞するなど品質重視の農業経営を実践した。

Ⅳ　地域創生部門

農林水産省経営局長賞

株式会社佐渡相田ライスファーミング（新潟県佐渡市）

代　　表：相田　忠明
作付面積：21.1ha（水稲）

・地域資源を活用した土づくり及び有機栽培の推進により高品質米の生産を確立するとともに、輸出拡大による収益力の向上を実現した。
・農業を核とした体験交流や情報発信に地域と連携して取り組み、地域内外との交流促進や海外販路の開拓を通じて、佐渡の魅力発信に寄与した。

藤井　貫司（大阪府羽曳野市）

作付面積：0.6ha（いちじく・露地）、800㎡（いちじく・ハウス）、0.3ha（水稲）、
0.1ha（トマト・露地）、500㎡（トマト・ハウス）、

・規格外のいちじくを活用したバターやビール等の加工品開発やサブスクリプションサービスの導入により販路を拡大するとともに、安定した農業経営を実現した。
・直売所やECサイトによる直接販売を展開のほか、マルシェの開催や体験型イベントを通じて地域農業の魅力発信に取り組み、いちじく産地のブランド力向上と交流人口の拡大に寄与した。

全国担い手育成総合支援協議会長賞

村口　知功（東京都八丈町）

作付面積：0.2ha（フェニックス・ロベレニー切り葉）、0.1ha（フェニックス・ロベレニー鉢物）、0.1ha（シェフレラ鉢物）、0.2ha（その他鉢物）

・八丈島特有のフェニックス・ロベレニーやシェフレラを生産し、フェニックス・ロベレニーは種から数年かけて育成、シェフレラは樹形をいかして仕立てるなど、高品質な鉢物づくりに取り組んだ。
・鉢物を無加温栽培するほか、フェニックス・ロベレニーの切り葉は露地で生産し共選出荷を実施するなど、地域の文化や気候など自然環境をいかした観葉植物の生産強化に取り組んだ。

農事組合法人五月（長崎県壱岐市）

代　　表：辻村　繁
作付面積：13.4ha（水稲）、9.8ha（大麦）、5.2ha（WCS）、4.5ha（飼料作物：イタリアンライグラス）、1.8ha（ばれいしょ）

・土地利用型作物は大型機械による効率的な作業を行い、露地野菜生産では定植・収穫作業などで地域の女性の活躍の場を創出するなど、法人構成員の高齢化が進む中、若手世代の経営参画を図った。
・特に壱岐地域でブランド化を図っているばれいしょ「壱岐黄金®」については、地域最大の作付を行い、生産者及び関係機関をけん引し、生産及び販売促進活動に取り組んだ。

株式会社道脇農園（長崎県五島市）

代　　表：道脇　実喜夫
作付面積：5.5ha（麦）、3.5ha（葉たばこ）、3.0ha（かんしょ）

・葉たばこを基幹作物とし、かんしょや麦を組み合わせた複合経営。麦わらや牛ふん、耕作放棄地の野草を活用した堆肥づくりによる土づくり、輪作体系の確立により、品質・収量の向上と環境負荷低減を両立させた。
・機械化一貫体系の導入により省力化を進めるとともに、地域農業の担い手として地域組織運営や人材確保、遊休農地の解消にも積極的に取り組んだ。

株式会社矢野農園（大分県日田市）

代　　表：矢野　伸太朗
作付面積：2.9ha（梅）、1.0ha（赤しそ）

・自社で生産した原料を用い、しそと塩のみで作る伝統製法の梅干しに特化することで、市場の中でも独自の価値を確立し、固定客の獲得につなげた。
・地元農協が運営する直売所に加え、大手通販サイト、自社オンライン販売を展開し、天候不順や市場変動などの外的リスクにも対応可能な販売体制を構築し、海外市場への展開にも挑戦した。

株式会社松岡グリーンファーム山都（熊本県山都町）

代　　表：松岡　和博
作付面積：2.3ha（ホウレンソウ）、2.3ha（コマツナ）、0.7ha（中玉トマト）

・減農薬・減化学肥料に取り組み、熊本県エコファーマーを取得（平成 30 年）したほか、自家製堆肥や輪作体系を導入し、化学的防除を減らした環境に優しい農業を実践した。
・自社生産したトマトを 100%使用したトマトジュースを開発し、年間約３ｔを直接販売や道の駅を中心に販売し、６次産業化を進めた。

Ⅴ　働き方改革部門

農林水産省経営局長賞

有限会社百笑会（新潟県長岡市）

代　　表：池田　治
作付面積：61.4ha（水稲）、26.5ha（大豆）、0.3ha（ねぎ等）

・定時退社の徹底や休暇制度の充実、作業環境の改善を進めた結果、従業員の満足度向上と人材定着を実現し、働きやすい職場づくりを進めた。

・従業員主体の GAP の実践やカイゼン活動を推進し、作業の見える化とスマート農機の活用により、生産性向上と人材の定着を両立した組織運営を実現した。

Ⅵ　担い手づくり部門

全国担い手育成総合支援協議会長賞

株式会社田村農産（新潟県柏崎市）

代　　表：三上　雅
作付面積：50.6ha（水稲）、1.8ha（大豆）、1.5ha（露地野菜）

・就業規則の整備や定時退勤の徹底、農繁期の休日確保、休憩室・女性用トイレの整備を進め、若者が能力を発揮しやすい働きやすい職場環境づくりに取り組んだ。
・幅広い業務を経験させる OJT を実施するとともに、４Ｈクラブや青年農業士活動への参加を支援。研修機関も積極的に活用し、地域を担う人材の育成に取り組んだ。